

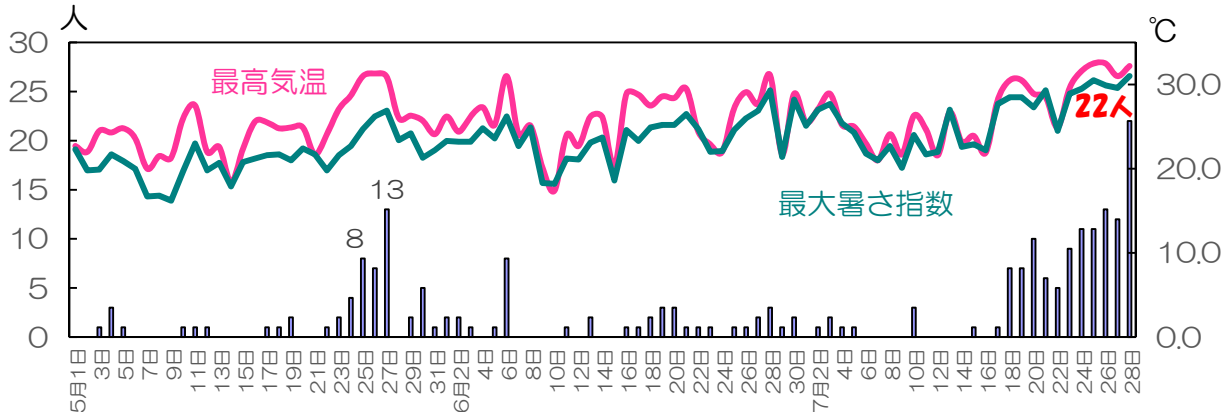
熱中症情報

<搬送数>

令和元年5月1日～7月28日までの搬送数（消防局データを使用）は、計218人（5月55人、6月40人、7月123人）でした。5月25～27日は真夏日（最高気温30.9～31.3℃）となり、搬送数も7～13人と多かったです。6月の真夏日は2日間（6月6・28日）で、搬送数は5月よりも少なかったです。梅雨明け後の猛暑で、7月24～28日の5日間で69人と増加し、7月の搬送数の約6割を占めていました。

熱中症は、梅雨入り前の5月頃から発生し、暑い日が続いてくると多発する傾向があります。気温が高いなどの環境下で、体温調節の機能がうまく働かず、体内に熱がこもってしまうことで起こります。

7月下旬から急に気温が上がり、体が暑さに慣れていないために熱中症のリスクが高まっています。こまめな水分補給とエアコン・扇風機を上手に使用して、暑さを避ける工夫をしながら、身を守りましょう。



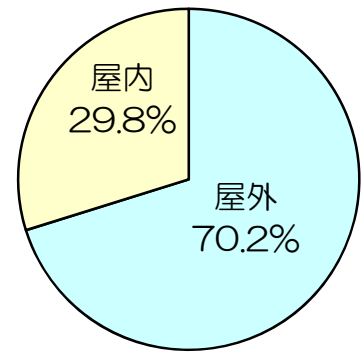
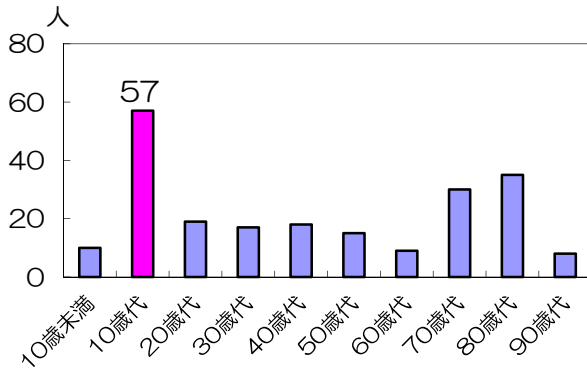
暑さ指数とは？人間の熱バランスに影響の大きい①湿度 ②日射・輻射(ふくしゃ)など周辺の熱環境 ③気温の3つを取り入れた温度の指標 詳細は「環境省熱中症予防情報サイト [暑さ指数\(WBGT\)とは？](#)」をご覧ください。

<年齢別>

年齢別では、10歳代が57人と、

<発生場所>

屋外70.2%、屋内29.8%で、最も多く、26.1%でした。屋外の発生が多いですが、室内での発生割合が増加しました。



<重症度>

軽症65.1%、中等症30.7%、重症4.1%でした。中等症、重症の割合が増加しました。重症は、高齢者（65歳以上）の屋外（歩行中・作業中）、屋内で発生しており、高齢になると重症化の傾向が伺えます。

